

必修テーマ【古文】

入試頻出ジャンル 仏教説話

テーマを学ぶ意義

■「仏教説話」とは

説話集は、伝説や実話・エピソードなどを素材にした話を編纂したものの。その中で仏教説話は、神仏に対する深い信仰や、善行に対する神仏の加護、悪行に対する報い、高僧が示した奇蹟などを扱うもので、当時の仏教思想・時代背景が現れている。夢に神仏が現れて未来の予言を告げる、というパターンもよく見られる。展開を押さえて読むのが大切。

・『今昔物語集』：世俗説話だけでなく仏教説話も豊富に収められている。
 天竺・震旦・本朝の各編の前半部に仏教説話がまとめて収録されている。
 ・『発心集』：筆者は『方丈記』の筆者として知られる鴨長明。仏教説話集であると同時に随筆的性格も強く表れている。

『日本霊異記』『三宝絵詞』『打聞集』『沙石集』（筆者は無住法師）
 などにも仏教説話集として知られている。

■入試頻出の理由

仏教説話は神仏への信仰というテーマが明確で、ストーリー展開もはっきりしているものが多い。登場人物がどんな行動をし、どのような出来事が起こったのかを把握する精緻な読解力が試されている。

到達目標

■頻出パターンを押さえ、展開のポイントを明らかにしよう！

頻出パターンの、1 善行の恵み、2 悪行の報い、3 法力の奇蹟、4 夢のお告げの四分類をまず押さえよう。

1 善行の恵み

1 神仏への深い信仰心をもつ / 善行を行う

⇐ 善根・功德を積む

2 危難や困難に直面する

⇐

3 神仏（特に地藏や観音）から加護・救済を受ける

⇐

4 危難から救われる / 極楽往生を遂げる

⇐ 利生を得る

2 悪行の報い

1 悪行を重ねる

⇐

2 厳しい天罰が下る（神罰・仏罰を受ける） / 地獄に落ちる

・大きな罪を犯した者でも、何か小さな善行があれば、仏の慈悲によって利生を得て救われる、というパターンもある。

必修テーマ解説講義映像にアクセス！

ZAINYPageからも映像を視聴いただけます。

「学習コンテンツ」内の「映像授業（通信教育）」から「観入ください」。



学習時間
20分

「善行の恵み」も「悪行の報い」も「善因善果、悪因悪果（＝善い行いが恵みをもたらし、悪い行いが報いを受ける）」という仏教の教えを説いている。

3 法力の奇蹟

- 1 高僧・聖などが霊力・法力によってさまざまな奇蹟を起こす
- ←
- 2 不思議な奇蹟が人々を驚かせ、いつそう信仰心や尊敬の念をかき立てる

・このパターンでは、登場人物が実名で登場することが多い。

=

実名を示すことで物語の信憑性が高まる。

奇蹟と見えたものが、実は天狗や妖怪が人を化かしていただけだった、というパターンもある。その場合は、だまされた人の愚かさや明らかにしたり、ウソを見破った人の知力が賞賛されたりすることになる。

4 夢のお告げ

- 1 寺に詣でて観音や地蔵に願い事をする
何日も参籠さんろう（＝寺に一定期間籠って祈願すること）している場合が多い
- ←
- 2 観音や地蔵が夢に現れて、お告げを伝え、未来を予言する
- ←
- 3 お告げで指示されたことを守って、お告げの通り行動する
- ←
- 4 予言が現実のものとなって、願い事が実現する

・このパターンは

A 「神仏に願い事をする」

B 「夢でお告げを聞く」

C 「願い事がかなう」

という三つの要素で成り立っている。

強い信仰心が幸せを招くという展開は、「善行の恵み」（＝功德を積む↓利生を得る）と共通している。

読解のポイント

イント。

1 問題読解は「リード文」から始まる

- ・問題文に付けられているリード文や注は、読解の大きなヒントになる。

・リード文はストーリーや場面・登場人物についての予備知識を提供してくれるので、リード文の内容を確認しながらしっかりと読むことが本文理解の大きな助けになる。

2 ストーリーのパターンを見極める

- ・仏教説話はパターン通りに展開するものが多いので、展開パターンを押さえると内容把握がしやすくなる。

・問題文は「善行と恵み」型、「悪行と報い」型、「法力の奇蹟」型、「夢のお告げ」型のどれに当たるのか、登場人物の言動に着目して考えよう。

3 ストーリー展開を押さえる

- ・パターン展開を念頭に置いて、物語の具体的な進行をたどる。

4 「善行と恵み」なら

- ・どんな善行（功德）を積んだか、どんな危難に出会ったか、善行のおかげで、どんな利生を得たかがポイント。

5 「悪行と報い」なら

- ・どんな悪行を重ねたか、その結果どんな天罰や報いを受けたかがポ

6 「法力の奇蹟」なら

- ・誰が、どんな場面で、どんな奇蹟を起こしたかがポイント。

7 「夢のお告げ」なら

- ・神仏にどんな願い事をしたか、夢に現れた神仏から、どんなお告げがあったか、お告げの通り行動すると、どんなことが起こったかがポイント。

・お告げの内容は突拍子もないものであることも多いが、とにかくその通りに行動することで、思いもよらない形で運が開けてくる。

8 登場人物の言動に注目する

- ・神仏の加護や夢のお告げが主題になっている場合でも、中心となる人物（主人公）の行動がストーリーの柱になっているので、主人公の言動に注目してストーリーを読み進める。

9 末尾の筆者のコメント・評言にも注意

- ・仏教説話では、基本的には神仏のありがたさ、信心の大切さ、因果応報の道理を強調しているものが多い。

チェックテスト

次の1～4は、仏教説話に関係の深い語である。それぞれの意味の説明として最適なものを次の中から選び、記号を記せ(同一記号の反復使用不可)。

- 1 功德 2 靈験 3 利生 4 因果応報
- a 自分の利益を最優先する利己的な生き方
 b 将来、幸運を手に入れるもとなる善行
 c 人間の知恵では解けないような神秘的な謎
 d 深い信仰に対して神仏から与えられる恵み
 e 他人の幸せをねたまず質素な生活を送ること
 f 神仏が、人間の祈りに応えて不思議な力を示すこと
 g 一つのこと遠因となつて次々と別の結果が生じること
 h 善行・悪行の結果として幸福・不幸がもたらされること
 i 神仏の怒りに触れないように心を正して生活を送ること
 j 功績を積むことによつて人徳が増し人からの尊敬を得ること

解答

1 b 2 f 3 d 4 h

解説

- 1 くどく。「現世や来世で、幸運やよい報いを得る前提となる善行」のこと。「善根(ぜんこん・ぜんこんとも読む)」も同じ意味で使われる。また、「功德」は「善行の報いとして」神仏から与えられる幸運という逆の意味で使われることもある。この場合の同義語は「(御)利益^{りやく}」。
- 2 れいげん。「れいけん」とも読む。「人の祈りや願いに応じて神仏が示す不思議な力」のこと。具体的には「病気を治す・人を危難から救い出す」という形で示されることが多い。キリスト教で「奇蹟」と表現されることがらと似ている。
- 3 りしよう。「利益^{りやく}衆生(＝人々を救済する)」の略。「深い信心に対する報いとして神仏が恵みを与えること」。1の「(御)利益」の同義語。
- 4 いんがおうほう。「過去の善悪の行為が原因となつて、その報いとして現在に幸不幸の結果が生じる」という考え。仏教の基本理念の一つ。「悪行の報い」の説明の中で触れた「善因善果、悪因悪果」も同じ考え方にもとづいている。